



学校だより 11月号

令和5年10月27日

かさま

No.509 横浜市立笠間小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kasama/>

【学校教育目標】かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子

## 体験を生かした学習

副校長 谷田部 康代

朝夕の寒さに秋の深まりを感じる季節となりました。6年生の修学旅行に続き、今月も低学年の遠足があり、そして先日は5年生の三浦宿泊体験学習が行われ、私も引率してきました。

行事というと、子どもたちが楽しみにしていることもあり、ややもすると学習ではないと思われるがちですが、行事も立派な教育活動で、しっかりした目的があります。学習指導要領には、「体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、子どもたちの資質・能力を育成する」と示されています。今回、三浦に行った5年生も出発式でスローガンの説明をした児童が、「遊びではなく、学習です。」と話していました。



さて、5年生が昨年度までの愛川とは違う初めての場所「三浦」で、どんな学習をしたのでしょうか。1日目は、あいにくの雨の中スタートしました。午前に行った「観音崎自然博物館」では、展示してある魚や貝を見たり、海藻を使った標本づくりをしたりしました。また、水産業レクチャーでは、説明して下さった職員が自分で海の中にもぐって撮ってきた写真を見せながら、その時の話をしてくださいました。子どもたちは、食い入るように興味深く聞いていました。

お弁当を食べ、博物館の方々にお礼の挨拶をした時には、雨は上がっていましたが、風が強く船が出せないという理由で午後に予定していた「地引網体験」が中止になってしまいました。バスの中では、三浦で楽しみにしていることとして、この地引網体験を挙げている子が何人かいたので、子どもたちの反応が心配でした。代わりに、早く宿泊施設の「YMCAグローバル・エコ・ビレッジ」に入り、部屋でのレクリエーションをした後に海岸を散歩することにしました。

学校だより10月号には、6年生が修学旅行2日目に予定していた朝の散歩ができなくても代わりに体験できたことを前向きにとらえている“ポジティブな心持ち”について書かれていました。5年生もその姿を受け継ぎ、「スローガンの自然とふれ合うことができた。」や「博物館で見た海藻や貝を拾うことができた。」と楽しんでいる様子が見られました。

2日目には、前日より約9度近く気温が上がり汗ばむ陽気の中、農場での収穫体験をしました。「農業に少し興味をもった。」  
「農業体験でたくさんの種類の野菜について教えてもらい野菜を大切にしようと思った。」  
「傷がついている野菜も食べて、フードロスが減らしていきたい。」と感想を言っていた子どもたち。まさに体験をしたから感じられたことが多くあったことをうかがわせていました。

この後、4年生の上郷宿泊体験学習も週明けから1泊2日で予定しています。様々な体験を通して、教室だけでは学べない多くのことを学び、生きる力を蓄えてほしいと考えています。

最後に、まだまだ色々な感染症が流行する中、体調管理に気を配って下さった保護者の皆様、昨年同様、子どもたちのいない教室をピカピカにしてくださった美化活動参加の方々、ありがとうございました。